

事務事業名	敬老会の開催	予算事業名		担当課	健康福祉課
会計名称	一般会計	予算科目	3 款 1 項 2 目	所属長名	久芳 義則
総合計画での位置づけ	誰もが安心して暮らせる健康福祉のまち			担当責任者名(記入者)	重山 大輔
				電話番号(内線)	
事業の性格	内部管理事務	法定事務	法令根拠等	老人福祉法	
事業の対象	町内の75歳以上の高齢者		実施期間	【開始年度】	平成 21 年度
				【終了年度】	平成 年度(予定) 設定なし
事業の目的	多年にわたり社会につくしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うため。		事業の内容	長寿者に対してお祝い状の贈呈や演芸などを行う。参加者に対しては弁当と記念品を渡し、参加できなかった方に対しては自宅に記念品をお送りする。	
改善策の具体的取り組み(当初)			改善策の具体的取り組み(二次評価後)		

事業費及び財源内訳 (千円)					事業活動の実績 (活動指標)					
項目	20 年度決算	21 年度予算	9月末の執行状況	21 年度決算	項目	単位	20 年度実績	21 年度予定	9月末の実績	21 年度実績
事業費					敬老会参加人数	人		315	317	317
直接事業費		3,239	148	2,971						
人件費		727	727	727						
合計		3,966	875	3,698						
財源内訳										
国庫支出金										
県支出金										
地方債										
その他										
一般財源		3,966	3,966	3,966						
事務量										
人工数		0.10	0.10	0.10						
人件費単価		7,274	7,274	7,274						
補助事業人件費										
人件費(x)		727.40	727.40	727.40						

向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	5年間の合計
	3,760	3,810	3,860	3,910	3,960	19,300

成果指標	敬老会参加者数	区分年度	20 年度	21 年度	22 年度	目標 23 年度
		実績		317		
指標設定の考え方	多年にわたり社会につくしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うためいかに多くの高齢者を祝えたかということで参加者数を指標とする。	目標		315	320	325

今年度の課題への対応状況(途中経過)

事業の評価	自己評価(担当責任者)	妥当性	事業の妥当性	5 4 3 2 1	4	合計点が	B	自己の課題認識	現在、町主催で敬老会を実施している市町は少なくなっている。行政区で実施して頂く等、今後の敬老会の在り方について検討する必要がある。		
										5 4 3 2 1	4
業務事業の一次評価(所属長)	自己評価(担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	4	合計点が	B	自己の課題認識	高齡化が進む中、現状のまま実施も限界がでてくる。会場についても入館できなくなる可能性もでてくる。今後開催手段の検討が必要である。		
			市民ニーズへの対応	5 4 3 2 1	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	3						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	4						
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	3						
	効率性	手段の最適性	手段の最適性	5 4 3 2 1	3						
			コスト効率	コスト効率	5 4 3 2 1	3					
				受益者負担の適正	5 4 3 2 1	3					
		一次評価(所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	4	合計点が			B	高齡化が進む中、現状のまま実施も限界がでてくる。会場についても入館できなくなる可能性もでてくる。今後開催手段の検討が必要である。
				市民ニーズへの対応	5 4 3 2 1	3					
				市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	3					
有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	3								
	成果向上の可能性	5 4 3 2 1	3								
	施策への貢献度	5 4 3 2 1	4								
効率性	手段の最適性	手段の最適性	5 4 3 2 1	3							
		コスト効率	コスト効率	5 4 3 2 1	3						
			受益者負担の適正	5 4 3 2 1	3						

事務事業名	敬老会の開催	予算事業名		担当課	健康福祉課
会計名称	一般会計	予算科目	3 款 1 項 2 目	所属長名	久芳 義則
総合計画での位置づけ	誰もが安心して暮らせる健康福祉のまち			担当責任者名（記入者）	重山 大輔
				電話番号（内線）	
事業の性格	内部管理事務	法定事務	法令根拠等	老人福祉法	
事業の対象	町内の75歳以上の高齢者		実施期間	【開始年度】	平成 21 年度
				【終了年度】	平成 年度(予定) 設定なし
事業の目的	多年にわたり社会につくしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うため。		事業の内容	長寿者に対してお祝い状の贈呈や演芸などを行う。参加者に対しては弁当と記念品を渡し、参加できなかった方に対しては自宅に記念品をお送りする。	
改善策の具体的な取り組み（当初）			改善策の具体的な取り組み（二次評価後）		

（自己評価） （担当責任者）	妥当性	目的の妥当性	4	B	B	4	目的の妥当性	妥当性	（所属長） 一次評価		
		市民ニーズへの対応	4							3	市民ニーズへの対応
		市の関与の妥当性	3								
	有効性	事業の効果	4	B		3	事業の効果	有効性			
		成果向上の可能性	4							4	成果向上の可能性
		施策への貢献度	3								
	効率性	手段の最適性	3	C		3	手段の最適性	効率性			
		コスト効率	3							3	コスト効率
		受益者負担の適正	3								
課題認識	現在、町主催で敬老会を実施している市町は少なくなっている。行政区で実施して頂く等、今後の敬老会の在り方について検討する必要がある。 自己評価は、担当者が主に事業推進を効率的効果的に進めたかどうかを評価したもの。 一次評価は、担当者の自己評価を踏まえて施策の推進を念頭に置き、所属長が評価したもの。				高齢化が進む中、現状のまま実施も限界がでてくる。会場についても入館できなくなる可能性もでてくる。今後開催手段の検討が必要である。						

施策を踏まえた判断	二次評価	一次評価結果より以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。  一次評価をやり直し、 月 日 までに事務局へ提出すること。  外部評価委員会で評価する。 答申期限： 月 日
		一次評価結果のとおり事業継続と判断する。	
		一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。	
		市民サービスに直結する主要事業のため、評価そのものを行政評価委員会に諮ることとする。	
		一次評価結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		一次評価結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	

外部評価委員会の判断	外部評価	参加率も低く、老人の生活スタイルも多様化しており、抜本的な実施内容の見直し及び廃止も含め検討が必要である。
------------	------	---

経営者会議の最終判断	事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する。 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。 <input type="checkbox"/> 右記の点を見直しの上、継続する。 <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 <input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。	コメント欄	対象者のうち出席者が3割程度ということもあり、町主催の事業として行っていくには妥当性・効率性が低いと思われる。高齢者の方々のニーズや実情に即し、多くの方にとっての福祉向上につながる施策となるよう、高齢者福祉事業として内容の見直し、検討を行う。
------------	--------	---	-------	---